

# 点描くんま経済

日銀支店長 見聞録

103

先日、高崎の県立近代美術館に「ゲルニカ」のタピスリを見に行った。世界にも点しかないタピスリの一つで、今年は8月下旬までの期間限定での公開だ。私は絵画鑑賞には全くの素人だが、ウクライナに関する報道に接するうちに、戦争をテーマとしたこの有名な作品を実際に自分の目で見たくなったのだ。

「ゲルニカ」のタピスリは、高さ約3メートル、幅約7メートルの大きな作品だ。描かれた人物や動物の姿が強いインパクトで伝わってくる。作品解説を読んで、ゲルニカ空襲が焼夷弾を

## 悲惨な戦争の歴史

# 残したい復興の記録

経緯なども初めて知った。300円の入館料で感じたことや学べたことは、とても多かった。

ゲルニカと同様に、第二次世界大戦中には群馬県内の多くの市町村が空襲を受けた。私が住む前橋市では1945（昭和20）年8月5日の空襲で5335人が亡くなり、日本銀行

使った最初の無差別爆撃だったことや、当時のスペインの政権とヒカソとの関係、原作がスペインに戻るまでの

前橋支店では宿直当番の職員4名が殉職した。あらゆる状況の下で金融システムを守るのが日本銀行員の務めではあるが、決して繰り返したくない歴史である。

そんな思いを胸に、市立図書館で空襲関係の資料を探したら、興

の2カ月後に撮影された写真を中心とする資料集で、焼け野原の中で住宅を建てている大工の姿など復興が始まった様子が収められている。また、七代目松本幸四郎が出演し、前橋公園の仮設会場で開催された「戦災復興舞踏大会」に詰めかけた

えぼしホール（前橋市民文化会館）に設置するとの報道がある

味深い本に巡り合った。2020年に閉館した「あたし歴史資料館」の関係者による「米軍が撮影した空襲後の前橋」（原田恒弘・田名網雅久著）だ。終戦で大規模な復興イベン

数千人の観客の写真もあつた。今後、展示室の設計などを行うとのことであるが、復興に向けた市民の足取りも学べる資料館になってほしいと思う。



肥後秀明（ひご・ひであき） 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局調査企画課長兼上席調査役、金融機構局調査運営課長兼上席調査役などを経て2022年4月から現職。